

血液・リウマチ科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 血液・リウマチ疾患が疑われる患者の問題点を適切に把握し、解決法を計画できる
2. 骨髄穿刺の手技を修得し、鏡検により基本的な血液疾患を疑い、専門医に紹介できる
3. 各種自己免疫疾患を疑い、専門医に紹介できる
4. 抗腫瘍剤・免疫抑制剤内服患者の全身管理ができ、各種感染症に対応できる
5. 血液・リウマチ疾患患者の症例報告を、上級医の指導のもと、作成できる

研修目的

血液・リウマチ疾患は、全身性の問題を抱えていることが多く、臨床医学に共通のプロセス（問題点を抽出して整理し、解決法を考え、必要に応じて検索し、しかるべき場でプレゼンする）を身につける格好の場である。また、治療薬（抗腫瘍剤、免疫抑制剤等）の副作用が強いため、薬剤管理のトレーニングに適している。さらに、最先端の臨床医学（分子標的療法等）を垣間見る機会も与えられる。

研修目標

◇ 一般目標

血液、自己免疫性疾患を中心に、内科的疾患全般の基本的知識を習得するとともにチーム医療、医療費負担、高額療養費制度などについても考慮する姿勢を学習する。

◇ 行動目標

1. 病歴・身体所見を適切にとり、カルテに記載できる
2. 上記より疑われる疾患を鑑別するために必要な検査を立案できる
3. 上記より適切に診断し、治療計画を立案できる
4. 末梢静脈ルートの確保、骨髄穿刺、胸腔穿刺、中心静脈カテーテル挿入などの臨床手技を習得する
5. 血液・リウマチ疾患の治療（化学療法、免疫抑制療法等）の基本知識を身につける
6. 患者や家族と良好な人間関係を築くことができる
7. チーム医療の一員としてコメディカルと協調し診療を行うことができる
8. 担当患者をしかるべき場（病棟・カンファレンス・学会・論文、症例の特徴に応じて）で提示できる

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

血液疾患：悪性リンパ腫（6-7 例）、多発性骨髄腫（2-3 例）、骨髄異形成症候群（4-5 例）、白血病（1-2 例）など

自己免疫性疾患：関節リウマチ（10 例）、リウマチ性多発筋痛症（1 例）、全身性エリテマトーデス（3 例）、皮膚筋炎（2 例）、多発性筋炎（1 例）、間質性肺炎（10 例）など

経験可能な手技：骨髄穿刺（5-6 件）、中心静脈カテーテル挿入（1-2 件）など

研修方略

LS	方法	該当 SBOs	対象	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	SGD	1、2、6、7	研修医	外来 病棟	カルテ	指導医	随時	毎日
2	SGD	5	研修医	病棟	実技	指導医	随時	毎日
3	講義	3、4	研修医	学習室	カルテ プリント	指導医	随時	60分

研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1、2、3、4、5、6、7、	形成的	知識、態度、実技	指導医	研修中	観察記録
1、2、3、4	形成的 総括的	知識、問題解決	指導医	研修終了時	レポート

週間予定表

	午前	午後
月	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修
火	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修
水	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修
木	病棟研修 外来研修	病棟研修 総回診、カンファレンス
金	病棟研修 外来研修	病棟研修 総回診

指導責任者および指導医

指導責任者： 亀岡 淳一
指導医： 小寺 隆雄
// : 城田 祐子
// : 阿部 正理
// : 岡 友美子
// : 小林 匡洋
// : 堤 智美
// : 武田 朋樹

学生（4~6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

適宜発表あり

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：3ヶ月）

1名/1クール